

- 1801: ピョトロヴィツェで、プロポリスを紛失したはずだが、違うようだ。
- 1802: 猫の鳴き声は、平均的にはニャーニャーですね？
- 1803: ヴオロナ君、熟睡したけりや、別室にソファがありますよ。
- 1804: フェデラーは、極度の怖がりである自分を省みました。
- 1805: 授業でも役立つウィジェットは、軒並み覚えています。
- 1806: 錦衣玉食の暮らしは、様々な病気の引き金になりますよ。
- 1807: ウィッグをつけた女神に会えるなら、毎日仮病を使います。
- 1808: あるとき墨汁を使つたと、虚偽を述べましたね。
- 1809: あれ、しゃぶしゃぶの食材は、テーブルに置いたと記憶してたのですが。
- 1810: ティーヴォリがアリューションへ行き、マルティヌーも付き添います。
- 1811: グオさんは、里では知られた顔で、皆から挨拶されます。
- 1812: ヴィヴァルディの四季を、袖が長い黒シャツを着て弾きます。
- 1813: そのデマの拡散元は、ビューヒエルベルクのネカフェみたいです。
- 1814: 中国の、デイディクウアイダって会社の規模は、圧巻です。
- 1815: デャデュンは、ビューマーから立派な蔵を譲り受けました。
- 1816: ここから東に真っ直ぐ進むと、プロスキイーリウって町があります。
- 1817: 無敵に見えるウォジミエシュですが、デバフが効くんですよ。
- 1818: 一目悪手に見えましたが、窮地をひっくり返す好手です。
- 1819: キエルツェに住むリヤードフは、狭量ではなく視野が広いです。
- 1820: ヴェルナーとクェスは気が緩み、スイノプで拉致されました。

- 1821: セミヨノヴィチ・ヴィゴツキーは、ピアディーナを嫌きらってます。
- 1822: サンスクリット語圏で働ごけんき、テヨやテヤ、デヤやデヨの発音を知りました。
- 1823: ガーズイープルでの結婚、仲人はビュイヤールさんだったんです。
- 1824: 夏帆かほはギリギリになって、パパへのプレゼントを背広に決めました。
- 1825: 渡るわたべからずとの看板があるのは、ぬりかべが出るからのようです。
- 1826: グイディッチオーニは、拒絶できない苦行への恐怖で、体が震えます。
- 1827: ビュービューピューピュー鳴る風の録画なつて、やっぱ難むずかしいですかね？
- 1828: あの、このスーツはウォッシュャブルだと伺うかがってたのですが。
- 1829: 先程やきほど ニュングエですれ違ちがった、艶美な方えんびがお見えかたになってます。
- 1830: 僕は、ビエラシュニツアに居きよじゅう住する、ジャハングルと申もうす者です。
- 1831: 会議かいぎが思おもいの外長ほかながいのは、きつとフォレスティエがごねてるんでしょね。
- 1832: 物騒ぶつそうな酔よっ払ばらいが闊歩かつぽするゾーンだから、ドパルデューも氣きを付つけて。
- 1833: ステルヴィオ・ヴェローチエを預あずかったが、ヴィオと略りやくして呼よんでいます。
- 1834: フオスターは、チヨベリグと書かかれた凡例はんれいを、グラフに追つい加かしました。
- 1835: グウエインから受けた細こまかい傷きずを癒いやすため、病院びょういんへ行いきます。
- 1836: ニューデイゲイトさんの件けん、そろそろ話はなしを進すすめましょ。
- 1837: ペトウラが禁酒きんしゅすると聞きき、即座そくざに無理むりつしよって言いっちゃったよ。
- 1838: シュンヒエンで飲のんだ紹興酒しょうこうしゅの味あじが、忘わすれられません。
- 1839: ブロニエフスキ様さまは、別館べっかんに案内あんないさせて頂いたきます。
- 1840: 貴方あなたの主義しゅぎは分わかったので、まずナンディウオー山脈さんみやくを登のぼるか決めましょ。
- 1841: その巨軀きよくが繰くり出だす一撃いちげきに、ポバイの視野しやが狭きようさく窄さくしていききました。

- 1842: ペトリューラは氣配を悟られず、逃げることに成功しました。  
けはい さと に せいこう
- 1843: ウイミヨンは学者肌だが、博士号を取るつもりは無いようです。  
がくしやだ はくしこう と な
- 1844: ギョルギでしたら、ピャニーガの姉の所へ引越しました。  
あね ところ ひ こ
- 1845: 己を鼓舞し、チャヴァリアとの勝負に勝ってくださいませ。  
おのれ こぶ しょうぶ か
- 1846: パジャリは指が長く器用なので、ピアノの適性があるでしょう。  
ゆび なが きよう てきせい
- 1847: 瓦礫の撤去に寄与したのは、ウエスパシアヌスさんです。  
がれき てつきよ きよ
- 1848: ヴァシーリエヴィチ様の、迅速な処理には、頭が上がりませぬ。  
さま じんそく しより あたま あ
- 1849: テヨと呼ばれるある選手は、過激な練習に耐えています。  
よ せんしゅ かげき れんしゅう た
- 1850: ビュザンティオンで、ブズエラを作るシェリーに、敬意を示します。  
つく けい い しめ
- 1851: クエスブでしたら、庫裏でビールの準備をしてるはずですよ。  
くり じゅんぴ
- 1852: あー、ファブリツイオの言葉の随所に、品の良さが出てますね。  
ことば ずいしよ ひん よ で
- 1853: 彪蔚の美しさを描くことにしたが、思ったようになりませぬ。  
ひゅううつ うつく か おも
- 1854: ぬー、伝馬船の由来を、ヴェチェッリオにどう説明しようかしら。  
てんません ゆらい せつめい
- 1855: レズビエが作るギュベチは、古今独歩のクオリティですぜ。  
つく ここんどっぽ
- 1856: ジェディディアは飄々としてますが、腐儒と陰口を叩かれています。  
ひようひよう ふじゆ かげぐち たた
- 1857: トゥーパリエフの知は頭抜けており、部下に愛されながらも卑しまれました。  
ち ずぬ ぶか あい いや
- 1858: 刹那の快樂に溺れて墮落とは、カステイーリヨも敗北ですな。  
せつな かいらく おぼ だらく はいぼく
- 1859: デュピュイは、度重なる馬鹿げた仕打ちに、謀反の覚悟を決めます。  
たびかさ たびかさ ばか しう むほん かくご き
- 1860: ギョルギヨンは、ボランティアで友達ができて喜びました。  
ともだち よろこ
- 1861: 神楽を舞うドウウォーキンの華やかさは、最早レジェンド級です。  
かぐら ま はな もはや きゅう
- 1862: ジャングルでは貝が手に入りにくく、価格が高くなりがちです。  
かい て はい かかく たか

- 1863: ああ、ヤギエウオ大学の周辺で、野晒しにされた自転車ね。  
だいがく しゅうへん のざら じてんしゃ
- 1864: あのペンションでは刺殺事件があり、まだ客足は戻っていません。  
しさつじけん きやくあし もど
- 1865: えー、モーペルテュイって、アーチェリーが死ぬほど下手なんでしょ？  
し へた
- 1866: ビヤチエフラフだって馬鹿じゃないし、調べても無駄ですよ。  
ばか しら むだ
- 1867: グアンスは己を統御し、大いなる野望を成し遂げました。  
おのれ とうぎよ おお やぼう な と
- 1868: シャルパンチエって哺乳瓶で、授乳した実績ありましたっけ？  
ほにゅうびん じゆにゅう じっせき
- 1869: エツェルの兵は、病人からも容赦なく略奪しています。  
へい びょうにん ようしゃ りやくだつ
- 1870: ツアヒャーギーンは、子供が産まれそうだからと、チャリで帰宅しました。  
こども う きたく
- 1871: シヤスコフスキーの予知は、百発百中で実に見事です。  
よち ひやつぱつひやくちゅう じつ みごと
- 1872: やっぱり、ピエトラシャクと出会えた縁には、感謝ですね。  
であ えん かんしゃ
- 1873: 螺子が固く、シェヴロレーが力任せに緩めました。  
ねじ かた ちからまか ゆる
- 1874: 客に出したジャージャー麺に、虫が入っていたそうです。  
きやく だ めん むし はい
- 1875: ゼルヴァツイウスは、キャベツの葉より茎を好んで食べます。  
は くき この た
- 1876: 阿弥陀如来に代わる仏を、私はまだ存じませぬ。  
あみだによらい か ほとけ わたし ぞん
- 1877: 五時限目は座学なので、宿題のチェックを済ませましょう。  
ごじげんめ ぎがく しゅくだい す
- 1878: プラザでは、伸びる杖の手品を披露してますよ。  
の つえ てじな ひろう
- 1879: 水道が逆流し、飲料水の確保すら厳しいです。  
すいどう ぎゃくりゅう いんりようすい かくほ きび
- 1880: 夜食に、カトリエーティを作らせておりますので、母屋にどうぞ。  
やしよく つく おもや
- 1881: ブリュッヒャー様は、我が社のスポンサー、くれぐれも丁重にね。  
さま わ しゃ ていちょう
- 1882: 完璧なフュージョンには、ウエンとウォンの存在が不可欠です。  
かんぺき そんざい ふかけつ
- 1883: 雑居ビルから、チェジャのヴォーカルが、雑音に混じって聞こえます。  
わうきよ ざつおん ま き

- 1884: 蒸らす料理でしたら、中華の真骨頂ですぞ。  
む りょうり ちゅうか しんこつちよう
- 1885: ミクシイで集ったミュイと、バッグギャモンでギャンブルし負かされました。  
つど ま
- 1886: 僕はナイフを研ぎ、ウェイヴのロゴを入れてお渡しします。  
ぼく い わた
- 1887: 根が張っている植物を、ヘンリーが強引に引き抜きました。  
ね は しょくぶつ ごういん ひ ぬ
- 1888: ニカラグアに、段ボールを十箱発送しておかなきゃ。  
だん じゅっぱこはっそう
- 1889: 神仏を貴ぶことは、大切なのです、ヨゼフィーネ様。  
しんぶつ とうと たいせつ さま
- 1890: その病状でしたら、牡丹皮で改善すると思います。  
びょうじよう ぼたんび かいぜん おも
- 1891: ファトウミルは、労働協約を締結し、アルバイトを始めました。  
ろうどうきようやく ていけつ はじ
- 1892: プロデョーヌのメンバーに、紫蘇を巻いた寿司を贈りました。  
しそ ま すし おく
- 1893: メドヴェージェフさん、究極のジェノベーゼができたって？  
きゆうきよく
- 1894: デイデエーは手加減が下手ですから、兎戯でも大人げなく潰しちゃいます。  
てかげん へた じぎ おとな つぶ
- 1895: 札付きの不良だったウィルチェックが、今や部活のレギュラーです。  
ふだつ ふりよう いま ぶかつ
- 1896: トルクアトウスの企みを、瞬時に喝破できるとは、流石ですね。  
たくら しゅんじ かつぱ さすが
- 1897: ペットタイトを、亡き祖母からの遺物として拝受しました。  
な そぼ いぶつ はいじゆ
- 1898: ミャオリージェは掘削に慣れず、三日目からサボり始めました。  
くっさく な みっかめ はじ
- 1899: 供述によると、ミャスイーシチェヴァは、別室で縛られてるとのことです。  
きようじゆつ べっしつ しば
- 1900: リャプノーフは初志を貫き、ボイスチェンジャーの研究を続けます。  
しよし つらぬ けんきゆう つづ
- 1901: 開票の結果、フェーヴルは一票差で落選した。  
かいひよう けつか いっぴようさ らくせん
- 1902: 薔薇のパフュームには、妖術じみた怪しげな魔力がある。  
ばら ようじゆつ あや まりよく
- 1903: ブリュギエルなら質疑はバッチリだから、俺らは遊ぼうぜ。  
しつぎ おれ あそ
- 1904: アークエットのペーパーを、派手に誤訳した間抜けは誰だ。  
はで ごやく まぬ だれ

- 1905: ウォーデルは、自分の補助が前提のヘーフェルに、辟易してきた。
- 1906: ヘズルティンはシャイで、人前に姿を見せることも稀である。
- 1907: ハイレゾオーディオコンポが壊れたと、デイヴオックは自嘲気味に話した。
- 1908: トウーシャーの素朴な疑惑が、マニユアルに加筆させる呼び水となった。
- 1909: 親の呪縛にもがき苦しむヴァーホーヴェンを、処罰せんでほしい。
- 1910: ムツツエンバハーが正義を説き、パイパイ喧しい奴らを黙らせた。
- 1911: 急遽舞台がキャンセルとなり、ウィラ様も立腹の御様子だ。
- 1912: キヤドヴァラダーは、川の氾濫に巻き込まれずに済んだ。
- 1913: テイージェンが、オモチヤのプロペラを回し、ルービックキューブで遊ぶ。
- 1914: 弱点の克服は、ブローデイが二流から脱却するのに必須です。
- 1915: ツイットグロッグの主は、飢餓をゼロにする活動を支持する。
- 1916: 水不足の街で、シエミエノヴィチが井戸を掘りあてたとな。
- 1917: 呪術を訝しむのは分かるが、侮辱や冒瀆はするなよ。
- 1918: 醜いと蔑まれても、チューリップを踏み潰す癖が直らぬ。
- 1919: うーん、僕らはヴァシエやウィザーらと、グループを組めるかな？
- 1920: イエウパトリーヤのヘウスラーは、謹厳実直な人柄と聞いちよるよ。
- 1921: イエヴティッチが更迭とは、青天の霹靂だったぜ。
- 1922: 兵糧攻めで、我が軍の戦力は削がれ、参謀は蹲る。
- 1923: ジョセツフィの下手際なら、会議で諮ることにしてくれ。
- 1924: セツツアが蚕糸からポロシャツを作ったが、サイズが緩かった。
- 1925: ちょっとジェロメウさん、ニヤキュサ語で「バズる」って伝えてよ。

- 1926: シイルの宝 玉が、茹でたパプリカとプラムで治癒すると伝えた。  
ほうぎよく ゆ ちゆ つた
- 1927: なあ、「僕は親不孝でえす」なんて、自慢にやらんぜ。  
ぼく おやふこう じまん
- 1928: くうちゃんは、ミヒヤエルから延々と求愛され、頬を赤らめた。  
えんえん きゅうあい ほほ あか
- 1929: ヒュームが炊いた米を、平然とヘルベルガーが食べる。  
た こめ へいぜん た
- 1930: 凹凸の激しいオブジェだけど、微妙に愛着が沸くね。  
おうとつ はげ びみょう あいちやく わ
- 1931: ブラキプテリギウスの化石のチェックなら、このパスを持ちなさい。  
かせき も
- 1932: 芳醇ペコリーノは、ヘリウオードがヘビロテで使ってる。  
ほうじゆん つか
- 1933: ピョクセスは結っていた髪を切り、短髪に戻した。  
ゆ かみ き たんぱつ もど
- 1934: ここから逆転するには、チヨリソと魚肉を何とかしなければ。  
ぎゃくてん ぎよにく なん
- 1935: 二十歳になったゲーゼの夢は、死ぬまでにグイネヴィアへ行くことである。  
はたち ゆめ し い
- 1936: 鼓を鳴らし、方々に義賊の侵入を知らせた。  
つづみ な ほうぼう ぎぞく しんにゆう し
- 1937: 歯止めが利かぬ悪鬼羅刹の処罰、是非ともお任せあれ。  
はぶ き あつきらせつ しょばつ ぜひ まか
- 1938: 主役の木っ端武者が、雪月夜に勇気を出し己を鼓舞する。  
しゅやく こ ぱむしや ゆきづきよ ゆうき だ おのれ こぶ
- 1939: ベトナムでニョクナムが売買されており、ペネロペがわざわざ買いに来た。  
ばいばい ばいばい
- 1940: ズィーアンへの出張が決まったが、旅費が捻出できず自腹になる。  
しゅつちよう き りよひ ねんしゅつ じばら
- 1941: 滅茶苦茶だが、サラハスィーは元手の百万を、ギャンブルに突っ込む。  
めちゃくちや もとで ひやくまん つ こ
- 1942: デヤンティは、くも膜下出血を患ったが、手術で治癒したよ。  
まつかしゅつけつ わずら しゅじゅつ ちゆ
- 1943: クイリチは祖母が危篤となり、急遽ベリトウンへ赴く。  
そぼ きとく きゅうきよ おもむ
- 1944: ポピーレッドの扇が、ザビエルのトレードマークだと覚えることだな。  
おうぎ おぼ
- 1945: ペッパでピリピリしたパイを出した、柳生駅のシェフを許さない。  
だ やぎゅうえき ゆる
- 1946: 金春流の始祖が誰か、キュベレは閻雲に調べた。  
こんばるりゅう しそ だれ やみくも しら

- 1947: ウィジェラトネは、金鳳花の呼び名が分ならず、辞書を引く。  
きんぼうげ よ な わ じしょ ひ
- 1948: ウチの店、長年エゾタヌキのマークが目印で、営業してたさ。  
みせ ながねん めじるし えいぎよう
- 1949: ベレニエシヨヴァーの弛まぬ努力に、ユギヨムは嘆服した。  
たゆ どりよく たんぷく
- 1950: ザハウイの、テヨとデヨの付く言葉を探す執念に、感服ですよ。  
つ ことば さが しゅうねん かんぷく
- 1951: 評判の良い演者であったが、ヒヨンは機嫌を損ねた。  
ひょうばん よ えんじや きげん そこ
- 1952: 道路が舗装され、ザンボーニはボジョレーヌーヴォーで祝った。  
どうろ ほそいっ いわ
- 1953: ジャンボパフェをペロツと平らげたホッペの胃袋は、宇宙なのか。  
たい いぶくろ うちゅう
- 1954: 百年前に蓮が繁茂し、今も脈々と生長を続ける。  
ひゃくねんまえ はす しま みやくみやく せいちょう つづ
- 1955: 平成十九年から、フォンツイは外科医も兼務しだした。  
へいせいじゅうきゅうねん げかい けんむ
- 1956: ペリエシャツで開催された荘厳な式典に、ギユミルが出席した。  
かいさい そうごん しきてん しゅっせき
- 1957: このゲームは良くて引き分けだけど、まだビエリツアのヘルプは要る？  
よ ひ わ い
- 1958: ヴオラピュクを学び、引喩の難しさが分かってきた。  
まな いんゆ むずか わ
- 1959: ユグオンなら、マウピティでの失敗を反省し、復活したぜ。  
しっぱい はんせい ふっかつ
- 1960: イヴァシユキエヴィツチは釈放され、ポトフとパナシエで乾杯した。  
しゃくほう かんぱい
- 1961: ミリヴォイエヴィツチよ、明日は明朝から、トラーヴェミューンデに出発だぜ？  
あす みようちよう しゅっぱつ
- 1962: 欧米との比較で、フィッツアーは母国の没落を認めた。  
おうべい ひかく ぼくく ぼつらく みと
- 1963: グァンギユは、メデイカルチェックで数多の患者を救った。  
あまた かんじや すく
- 1964: ラサルハグエはへびつかい座の一つで、ラムザタワーから見えますよ。  
ざ ひと み
- 1965: リヴィウボグロムなどの虐殺は、二度と起こしてはならぬものだぞ。  
ぎやくさつ にど お
- 1966: 湯冷ましでグチユグチュとうがいしてたが、ひよつとして寝惚けてた？  
ゆ れ
- 1967: ギャニャールで八百人死んだが、病因は寄生虫らしいぞ。  
はっぴやくにんし びょういん きせいちゅう



- 1968: ああ、プロヴェンザノは、ジェレンツァーノの墓地に葬られたよ。
- 1969: シェーフアーは若者と交わり、ヴェラツァーノは拒否した。
- 1970: 硫黄の匂いに、豚はぶーぶー、猫はミャーミャー鳴いてるつてば。
- 1971: スイルギーイエヴィチュの探求力は、頭抜けてたからな。
- 1972: サピエハは寒気でゾクゾクしていたが、律儀に日課をこなす。
- 1973: デュフレエヌが寝入る時間に、こっそりベランダで煙草を吸う。
- 1974: ヴイプケは同姓と遊ぶと、すぐへとへとに草臥れる。
- 1975: デインゼオは頑丈で、ベッヒャーのチョップ程度なら無傷だよ。
- 1976: まさか下町の賭場で、ベルシャツアル殿を目撃するとは。
- 1977: 二足の靴のパティエヌを、並行して進めてもらう。
- 1978: 得意の模写で、セミヨーノフを挫折させるとは、あんた只者じゃないな。
- 1979: 僕は明日、ベランジェとドウアベレに発つから、留守を頼むよ。
- 1980: 玄米から糠を除き忘れ、思わずデヨーと声が出た。
- 1981: チエルニウツィーで、カンビャーゾに殴られた打撲が痛い。
- 1982: 拘束されたユフィは、湯葉を指に巻いていたら、ユーフォーを見た。
- 1983: 点字のことで略式起訴されたが、友のメールで夜は眠れる。
- 1984: 汚れた気持ちは、貴族とウエカピポを聴いたら忘れたよ。
- 1985: ソルジェニーツィンとテュローは、中東の歴史をレポートにまとめた。
- 1986: ジョネットは、過去にホビョト語を習ったが、すでに覚えてない。
- 1987: アニューシャが憎いとしても、ペタバイトのエスエスデイーは欲しいだろ。
- 1988: やっぱりポツシユは、パリとツオデイロを訪れることにした。

- 1989: チャコールグレーのスーツを着た彼女は、無事に復職した。
- 1990: クォールズは、ペルセフォネの悪巧みを阻止すべく、働きかけた。
- 1991: ちょっとゴタゴタして、ヴォコーダーの音色チェックを忘れちゃった。
- 1992: フアンタジーの世界では、不思議と彫像が切り札になる。
- 1993: 酒豪で知られるグワイだが、バーボネラだけは苦手である。
- 1994: ロボットがピポピポと鳴り、ユーポはヒエッと声を上げ慌てる。
- 1995: 激怒したペーテヤが振るう拳に当たると、死ぬと思うぜ。
- 1996: ビュフォードは、溶岩に飲み込まれる夢を見て、飛び起きたって？
- 1997: 微笑を浮かべるピャトノフだけど、あの戯言を聞けば無理はないな。
- 1998: 君は、キャンクアンジからプライベートジェットで来た、ボルジェスだね。
- 1999: ヴエルデイエは意志薄弱で、風見鶏だと陰で揶揄されるほどだしな。
- 2000: 布を鮮やかに彩るなら、ヴォジーシエクの教えが欲しいな。